

# 高等特別支援学校、校名は5月に公募

県立吉川高等特別支援学校(仮称)

来春開校する県立吉川高等特別支援学校(仮称)についての情報交換会が13日、吉川コミュニティプラザで行われました。これには吉川区総合事務所長、地域協議会正副会長、JAえちご上越吉川支店長、地元町内会長、県義務教育課の「開校準備室」の赤松参事など10数名が参加しました。

このなかで県の担当者は、これまでの経過を説明するとともに、準備室などで検討してきたことや当面の方針について明らかにしました。主な内容を列挙しますと、

- ①耐震改修などの設計がまもなく終わるが、7月から工事を開始し、雪が降る前には完了させたい。
- ②開校準備室は7月に県庁内から上越市内に移転し、校舎の工事が終わり次第、そこに入る。
- ③校名については5月に公募し、それを最大限尊重して決めていきたい。



- ④学校そのものは今年の11月1日に設置の予定である。そうしないと開校に向け、生徒募集などの事務が進められない。
- ⑤開校にあたっては、学校をつくる段階から、(吉川区の)皆さんの知恵を貸

していただきたい。そのため、5月に保護者ならびに地域を対象に説明会を開催するほか、月1回程度の運営協議会を開催していきたい。ということになります。

県立吉川高等特別支援学校(仮称)は来年度(2011年度)以降、2学級20人ずつ募集し、2013年度には全校生徒数が60人となる予定です。配置予定の教職員数は、2011年度が校長、教頭、教諭5、養護教諭1、事務職など4、合計12人。その後、生徒数が増えるに従い教職員数も増え、2013年度には20人となる見込みです。受入対象生徒は主に軽度の知的障害者で、一般企業などへの就労をめざすものとされています。

## 新年度の議会報告会を開始

4月から新年度に入りました。日本共産党議員団では、3月議会報告会を高田、直江津会場で12日、13日と開催しました。(写真は高田会場)



議会報告の後の懇談会では、参加から、「通学路の歩道除雪が間に合わなかったことがある。何とかして」「木田庁舎の障がい者用の小さな駐車場から正面玄関まで少し坂になっていて。ここに屋根をつけてほしい」「議

シリーズ 上越市内の橋

第35回 小姓人橋

「小姓人橋」と書いて「こしょうにんばし」と読みます。青田川にかけられた、しゃれた歩道橋です。最初の橋は江戸時代に架けられたものといえます。



杉本敏宏前市議のブログによると、橋の名前の由来は、昔、この近くの屋敷に住む美しい女性にお城の小姓が惚れ、この橋を渡って通ったということのようです。いまの橋の名前を書いたのは書家の早川大斗先生です。橋長は約16m。竣工は2006年(平成18年)11月です。

会は提出された議案に誰が賛成したか、反対したか公表すべきだ」などたくさん要望や意見が寄せられました。こうした要望を受けとめ、議員団では施設の調査などを開始しています。議員団では今後、13区でも4人そろつての報告会を行う予定です。なお、「橋爪法一を囲む会」も9日からスタートさせました。

## 『「五センチ」になった母』

5月8日、遊ランドで出版記念会

『「五センチ」になった母』(同時代社)の出版記念会を執行委員会の皆さんが開いてくださることになりました。

来月8日(土)、午後1時からスカイトピア遊ランドにて開催。会費は本代を含めて5000円(本がある人はその分、少なくなります)。会には国際啄木学会の近藤典彦前会長も駆けつけてくださいます。参加を希望される方は実行委員会事務局の田子(たご)正三郎さん(電話548-2336)まで。



# 柿崎区における路線バス見直し実証運行計画(案)…主な内容(市地域公共交通活性化協議会資料)

## 公共交通（路線バス）に関する問題点

### 【路線競合があり非効率な運行】

・山直海線、黒岩線、水野線、上直海線の4路線が「下小野～柿崎駅」の間で路線競合があり非効率な運行となっている。

### 【利用者減少に伴い欠損額が大きい】

・平成21年度実績で、黒岩線（平均乗車密度0.7）、水野線（平均乗車密度0.4）上直海線（平均乗車密度0.9）の利用者が少なく欠損額が大きい。

### 【路線バスとスクールバスのすみ分けが必要】

・各集落を回るスクールバスが朝20系統、夕13系統運行している。その中には路線バスの運行と重複する区間も多くある。

※現状ではスクールバスの利用状況から混乗化は難しい。

## 公共交通ネットワーク見直しの基本的な考え方

### 【公共交通ネットワークの階層化】

・浜線（直江津～柿崎）、山直海線（柿崎～原之町）の2路線は、地域拠点を結ぶ重要な路線であり「幹線」として位置づけ、柿崎区内を運行する黒岩線、水野線、上直海線は「支線」として位置づけ運行します。

### 【利用需要に応じた新たな運行形態の

乗合タクシーを導入】

・黒岩線、水野線、上直海線は、1日を通して利用者が少なく、最大乗車人数は黒岩線の10人が3路線中で最大値であることから、少量輸送手法である乗合タクシー（または小型バス）を導入します。

### 【利用目的にあった運行ダイヤ、運行本数の設定】

・通勤、通学、通院など、利用者のニーズに対応した運行ダイヤ、運行本数に見直します。

## ② 公共交通ネットワークの階層化（幹線・支線の設定）及び公共交通拠点の設置イメージ



現在の路線



見直し後の路線

